

平成28年度国立大雪青少年交流の家教育事業・「体験の風をおこそう」運動推進事業計画一覧

No.	事業種	事業名	継続年数	事業の目的	事業内容	期間	対象	募集人数(人)	備考
1	教育事業 (看板事業)	「登山指導者研修会」	6	□学校をはじめとする集団登山を安全に実施するために必要な知識と技術を身につける。 □登山をとおして、自然の恩恵に気づかせるための指導法について理解する。 □火山災害に対する防災教育の指導法を学ぶ。	○登山の技術 ○事前、本番、事後の一連の安全対策	H28. 6. 25 (土)～26 (日)	教育関係者 青少年教育の指導者を目指す者 (18歳以上)	20 (先着順)	
2	教育事業 地域力向上事業 (旧モデル事業)	「ワイルドライフキャンプ2016」	3	□「新・機構元気プラン」(平成26年6月提示)を踏まえた体験重視の内容とする。 □先導的なプログラム開発事業とする。	○現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上を目指す ○問題発見や問題解決能力の育成を目指す ○思考や理解の基盤づくりを目指す ○自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得を目指す ○社会性や共に生きる力の育成を目指す	H28. 8. 3 (水)～10 (水)	小学校3～6年生、中学生	20 (先着順)	
3	教育事業 (指導者養成事業)	「青少年教育スキルアップセミナー～青少年教育基礎研修～」	5	□青少年教育施設職員に求められる資質・能力を高める。	○青少年の現状と課題、青少年教育施設の意義と役割などについて理解を深める。	H28. 4. 23 (土)～24 (日)	教育関係者 青少年教育の指導者を目指す者 (18歳以上) 大学生、一般	20	道青教協との連携
4		「ゆーすびあ・ボランティア塾」	9	□ボランティア活動を行う上で必要な知識・技能について講義、演習、実習をとおして習得する。 □青年層の自立を促し、生きがいを見出し生き抜く力を磨く契機とする。	○青少年教育への期待 ○子供の発達心理 ○集団活動と豊かな心の育成の関係 ○自然体験活動と安全 ○野外の遊び ○野外調理 ○救命救急 ○先輩ボランティアから学ぶ	H28. 5. 28(土)～29(日)	高校生、大学生、専門学校生、勤労青年	20	
5		「教員免許状更新講習」	3	□学習指導要領における体験活動の取扱いを理解する。 □教員自らが体験活動を行うことで、安全に配慮した指導法と技術を身につける。	○学校教育の現状と課題 ○学校教育における体験活動の意義と効果 ○体験活動と安全管理	H28. 7. 31 (日)～2 (火)	小学校教諭 ※終了確認期限H.28. 3. 31～ H29. 3. 31	20 (先着順)	
6		「自然体験活動指導者 (NEALリーダー) 養成事業)」	2	□青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる指導者を養成する。	○青少年教育における体験活動 ○学校教育における体験活動 ○自然体験活動の特質 ○対象者理解 ○自然体験活動の指導 ○自然体験活動の技術 ○自然体験活動の安全管理 ○自然体験活動の企画・運営	H29. 1. 10 (火)～12 (木)	青少年教育関係者、学校教育関係者、自然体験かず鍋に興味・関心のある方 (18歳以上)	30 (先着順)	
7		「北海道 体験活動指導者セミナー」	7	□体験活動の指導法とその技術を身につける。 □学校教育における体験活動の意義について理解し、教育課程との関連性について知る。	○学校教育における体験活動の意義 ○教育課程と体験活動の関連性 ○プログラムの企画立案 ○体験活動の技術 ○体験活動の指導法 ○安全管理	H29. 1. 13 (金)～15 (日)	教育関係者 青少年教育の指導者を目指す者 (18歳以上)	20 (先着順)	※日高との共催 H28は日高会場
8	教育事業 (国際交流事業)	「ユース オブ ワールド 2016」	3	□日本と諸外国の青年が様々な体験活動をおとして交流する。 □自国や他国の文化と伝統等を理解し、協調しながら生きていくために必要なグローバルな資質を備えた人材を育成する。	○自然体験 ○生活体験 ○文化体験 ○グローバルアクションプラン	①H28. 8. 11 (木)～13 (土) ②H28. 9. 17 (土)～19 (月)	留学生 日本の青年	各20 (日本と外国の青年各10)	文科省委託事業に申請
9	教育事業 (生活・自立支援事業)	「体験の風キャンプ in ゆーすびあ」(旭川編)	3	□道内の児童養護施設等の子供を対象に、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動を提供して、その成果を広く周知することを通して、各施設の取組を促進する。	○生活文化体験 ○自然体験 ○体力作り ○調理体験	H28. 7. 26 (火)～27 (水)	母子生活支援施設 トキワの森編	約30	
10		「体験の風キャンプ in ゆーすびあ」(富良野編)	2	□道内の児童養護施設等の子供を対象に、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動を提供して、その成果を広く周知することを通して、各施設の取組を促進する。	○生活文化体験 ○自然体験 ○体力作り ○調理体験	H28. 10. 8 (土)～10 (水)	児童養護施設 富良野国の子寮	約30	
11	子どもゆめ基金 体験の風 リレーションシップ 事業	地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「びえい冒険キッズ」	2	□美瑛町公民館や民間企業等と協働開催し、地域の様々な資源を活用したプログラムを実施する。 □地域の子供たちの実態や学校における教育課題等を捉えた体験機会の提供をとおして、日常生活の中で自ら多様な体験活動に取り組む意欲を高める。	○料理体験 ○ナイトハイク ○水泳教室	H28. 9. 3 (土)～4 (日)	小学校1～3年生	30	美瑛町との連携 【プログラム支援の観点】 ・体験活動の機会・良好な人間関係 ・望ましい生活習慣・読書運動の推進 ・体力向上の推進
12		子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 「びえいアスリートキッズ」	2	□トッパースリットによる水泳教室をとおして、子供たちが、スポーツの楽しさや体験することの喜びを体得する。	○水泳 ○アスリート食事学 ○フィジカルトレーニング	H28. 10. 29 (土)～30 (日)	小学校4～6年生	30	
13		子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 「白金カップクロスカントリースキー記録会」	8	□記録会をとおして、冬季の健康・体力の増進を図るとともに、参加者の交流を深める。 □整備された特設コースを活用して、クロスカントリースキー選手の基礎体力向上を図るとともに、チューンナップの技術を高め、競技力を高める。	○スポーツをとおした交流会 ○チューンナップ講習会 ○記録会	H28. 12. 3 (土)～4 (日)	個人及び団体参加	300	
14		子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 「子どもゆめ基金説明会」	3	□民間団体が実施する子供の体験活動や読書活動等支援基金の申請方法に関する説明及び相談機会を提供し、申請団体の拡充を目指す。また、基金を活用して交流の家の利用促進を図る。	○子どもゆめ基金概要説明 ○申請方法 ○プログラム相談	①10. 2 (日) ②10. 11 (月) ③10. 13 (木) ④10. 26 (水) ⑤10. 28 (金)	青少年の健全育成の推進を目的として活動している民間団体など	各20団体	
15	地域ぐるみで 「体験の風をおこそう」 運動推進事業	地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「大雪冬のレクススポーツ祭典」	5	□冬の体力向上や生活リズムの大切さについて理解する。 □異年齢の集団遊びをとおして、友だちとの関わり方や集団遊びの楽しさを醸成する。	○雪原散策と自然観察 ○早寝早起き朝ごはん体操	H29. 2. 25 (土)～26 (日)	一般	200	
16		地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「子どもクロスカントリースキー教室」	5	□スキーを活用した野外活動をとおして、身近な冬の自然に親しむ態度を養う。 □冬の体力向上や生活リズムの大切さについて理解する。 □異年齢の集団遊びをとおして、友だちとの関わり方や集団遊びの楽しさを醸成する。	○スキー基本講習 ○レクリエーションによる交流会 ○宿泊体験 ○早寝早起き朝ごはん体操	H29. 2. 25 (土)～26 (日)	美瑛町及び近隣市町村の小学生	50	
17		「北海道青年団体協議会青年大会」	1	□青年団体のスポーツ交流の機会とする。 □青年大会(体育大会)を交流の家で開催することで、交流の家の開所からの歴史を振り返る機会とする。	○スポーツをとおした交流会	H28. 7. 2 (土)～3 (日)	北海道青年団体	50	
18		「全道高齢者大学移動学園祭」	1	□上川管内を中心に高齢者の交流の機会とする。	○演芸部門、落語 ○パークゴルフ大会 ○丘のまち撮影会 ○自然散策	H28. 7. 4 (月)～5 (火)	高齢者大学	150	
19		「子どものための火山防災フォーラム」	1	□十勝連峰周辺の子供たちを中心に、活火山の成り立ちや火山がもたらす恵みなどについて理解するとともに、火山防災に対する意識を高める機会とする。	○ハイキング(防災プログラムコース) ○講話「活火山の成り立ちと恵み」 ○火山防災学習	H28. 9. 24 (土)～25 (日)	美瑛町及び上富良野町を中心とする小学4年生～6年生	40	十勝岳山麓ジオパーク推進協議会との共催
20	開所50周年記念事業 (寄付金)	地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「ゆーすフェスタ2016」	6	□教育資源を活かした体験プログラムを地域と協働で提供することによって、世代や地域を越えた多種多様な「交流」の場を創造する。 □より多くの国民に施設の取組と機能をPRし、新規団体の拡充につなげる。 □「新しい公共」型の運営方針から、様々な外部との連携による運営のあり方を確立する。	テーマ「キテ・ミテ・ハッケン!大雪タイケンの祭典」 ○普及啓発・パフォーマンス部門 ○自然体験部門 ○体験活動部門 ○仕事体験部門 ○物販部門 ○展示部門	H28. 10. 1 (土)～2 (日)	一般	1,100	
21		地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「北海道職業高校の祭典」	1	□農業等を学ぶ高校生の日頃の教育活動や学習成果の発表の機会とする。 □発表・販売実習の場を提供し、広域な道内の職業高校で学ぶ生徒の交流の機会とする。	○学習成果発表 ○職業高校の交流 ○実習・加工品販売	H28. 10. 2 (日)	職業高校	150	
22		「体験の風をおこそう全道フォーラム」	1	□道内の青少年教育施設と連携して、北海道の子供たちに豊かな体験の機会を提供する運動を展開する。	○自然体験活動 プース別活動 ○ブックトーク ○パネル展 ○特別講演	H28. 11. 5 (土)～6 (日)	北海道の青少年(主に札幌市・旭川市圏内の小学校中・高学年) 青少年教育施設職員 体験の風推進員 青少年教育に係る指導者・ボラン	150	道青教協との連携